



藤沢市立明治中学校 学校だより

2023年12月19日

明中通信 No.8

発行 校長 中尾安伸

〈学校教育目標〉 ひと・もの・ことと豊かに関わりながら たくましく生きる生徒の育成

学校ホームページ <http://www.fujisawa-kng.ed.jp/jmeij/>

2023年が終わろうとしています。今年はどういう年にできましたか。

そう自分で自分をコーディネートできた人とただ流されてきた人。学生でいるうちは、この違いに気付かないかもしれません。それは多くの先輩達が行ってきた道を歩むことができるからです。

ずっと、このまま人が歩んだ道を歩いていけるかといえば、違いますかね。では、どうする？

「社会」にできる準備のために、「中学生の立場」で試しておくことです。自分の周りに起きている考え事や悩み事を周りの人に相談する、先輩に助言をもらう、保護者の方に協力してもらうなどもできます。これは大切なことです。それでも、最後は自分で悩み・考え、そして判断・決断していくことです。たとえ小さな岐路でも「自分で決める」ことが必要なんだと思います。

3年生は卒業後の進路をほぼ決めました。いろいろなことを考えて「今」に至ったんだと思います。今は納得している進路でしょう。「今」やるべきこと、「自分が正しい」と思える「自分づくり」をしていってください。1, 2年生にも同じ思いを持っています。伝われば嬉しいです。



〈伝えたいこと〉「藁(わら)しべ長者」

貧乏でどうにもならない男が、大和の長谷の観音様に参り、「どうか助けてください」と拜んでいました。

そうしたところ、ある晩、夢に観音様が出てきて、言いました。

「その方、前生の行いが悪かったので、この世で報いを受けているのだ。授ける福は無いのだが、あまりに不便なので、少しだけものを遣わすぞ！これからの帰り道、最初に手の中へ入ったものを賜りものと思って持ち帰れ。」

男はその夢を観音様のお告げと思い、今日のお参りを最後にすることにしました。

長谷の観音様の大門を出ようとするとき、どうしたことが、つまづいて転びました。

転んだときにたまたま拾った1本のわらしべ、金持ちになる最初のきっかけとなりました。

男は目の前を飛び回っていたうるさいアブを捕まえて、わらしべに結びつけてみたところ、近くで泣いていた男の子がこれを欲しがります。男の子の母親がミカンと交換してほしいと言うので、迷った末に男は交換に応じました。(わらしべとアブからみかん3個へ)

男はさらに歩いていった先で喉の渇きを訴える商人と出会い、ミカンと反物の交換に応じます。反物は高価な物で和服を作る布地。昔は布地のまま商人が売り歩いていました。ミカンと反物では商品価値が釣り合いませんが、水を飲めずに苦しんでいた旅の商人にとってミカンは商品の反物に替えてでも欲しい品だったのだと思います。(みかん3個から反物へ)



次に男は馬が弱ってしまって動けないでいた武士の家来と出会い、捨てられようとしていた馬と反物を交換してもらいました。(反物から馬へ)

水を飲ませて元気を取り戻した馬に乗って旅を続けた男は、旅に出ようとしていた屋敷の主人と出会います。主人は馬を借りたいと申し出て屋敷の留守を男に頼み、3年経っても自分が帰って来なかったらこの屋敷を譲ると約束しました。主人は3年を過ぎても戻って来なかったため、貧乏だった男は1本のわらしべを元手にして屋敷を手に入れ金持ちになりました。(馬から 屋敷へ)

そして、長谷の観音様に感謝した、という話です。

この「薫(わら)しべ長者」という話は何を伝えたかったのでしょうか。

1本のわらしべを元手にして屋敷を手に入れ金持ちになったという話?確かにそうですね。

しかし、それだけでしょうか。

もし転んだときに拾った薫しべを手にしてなかったら、わらしべをアブに結ぶということもなく、みかんに変えてもらえる機会もなくなりました。ここだけを切り取ると「信じる」ということがチャンスを生むということでしょうか。もう一つ。「人助け」「人の役に立つ」ということ。「正しいことを続けていく」と大きな成功へと繋がることがある!ではないでしょうか。

私は、もし、「ものごとがトントン拍子に進んでいくとき」とは?と尋ねられたら、『「正しいこと」を続けているときだ。』と応えます。今回の「薫(わら)しべ長者」は長者になろうと私利私欲を持っていたわけではありません。薫しべ(わらのくずのこ)がまさかですよね。それでも、自分の元手を人のために使うことで何倍にもなってかえってきた。

『「正しいこと」「人の役に立つこと」を続けていけば大きな成功に繋がることがある。』

ということをお話したのは伝えたかったのではないのでしょうか。

<11, 12月の部活動の様子>

<男子ソフトテニス部> 小松・藤巻ペア 11/3 県大会の様子 「自信」となる試合



<男子バレーボール部> 12/2 県大会の様子 県ベスト16 ワンチーム



<女子バレーボール部> 12/2 県大会の様子 強豪に善戦



<吹奏楽部> 県アンサンブルコンテスト 12/17 クラリネット三重奏(加藤・古川・澁谷)

コンテストは撮影が許されていない。学校での直前練習の様子。写真が少ないため、ささやかですが私のコメント。明治中の5つ前の演奏から聴いていた。さすがに、県アンサンブル。湘南地区も感動したが、素人の私でもレベルが高まっていることを感じた。その中で直前の演奏が打楽器で魅せる要素が多分にあった。その余韻が残る中でのスタート。それでも3人の音楽は会場の人々を魅了していく演奏となった。素晴らしい。



<サッカー部> 湘南大会 12/9 と 12/16 の湘南大会の様子 初戦 劇的な逆転勝利



<家庭部 癒やしのクリスマスツリーとリース(職員室廊下側の壁面)>



家庭部のみなさんが、右の写真のようなクリスマスツリーとリースを作成してくれました。心に余裕をくれる作品に癒やされます。ありがとうございます。
(左写真 左側2年生 右側1年生)



<明治地区避難所訓練> 12/3



毎年、年に1度行われている標記訓練は各自治体の代表が明治中学校に参集します。大震災に対する準備です。明治中学校は大地震の際、避難所が開設されます。

アリーナには家庭毎プライベートが守られるように写真のような囲いが作られます。大地震が起きたときのための準備として、定期的に家族で話し合いを持ち確認しておくといでしょう。

<明中応援隊 図書室文庫本カバーフィルム隊> 12/6, 7



今回、図書室に置いてある本にブックカバーをつける作業を明中応援隊にお願いしました。

写真の通り多くの方が参加してくださり、ありがとうございました。おかげさまでたくさんの本にカバーが付けられました。しかしまだ、未カバーの本があります。今後ご協力のほどよろしくお願いいたします。

<明中おやじの会(側溝清掃編)> 12/2 全てに優しいおやじの「The SDGs 側溝清掃」



半日でグラブ1周完成 再利用①土砂はグラブ整備に 再利用②落葉は肥料に
*おやじの会のみなさま ありがとうございます。

<第2学年「鎌倉班別学習」> 12/12



辻堂駅に集合。班毎での鎌倉学習。実行委員長は葉に「鎌倉の歴史を実際に行って学ぶ」と書いてありました。他に「楽しいという要素とどうメリハリをつけるか」とも。副実行委員長は「自治の力が試される行事」と書いていましたね。当日もリーダーの気持ちが伝わったようです。全員がルールを守ることが「自分も人も大切に」していることになりますね。互いが互いを思い合う気持ちが日々の生活でも大切です。修学旅行も素敵な行事にしましょう。



<第1学年「川崎校外学習」> 12/12 川崎平和館にて(他 かわさき宙・緑の科学館、民家園)



「平和学」を学ぶワークショップ

ワークショップまとめ

資料の見学



介護の仕事について説明

介護する側 受ける側

みんなで協力

歩きづらそう

<伝えたいこと (気になる言葉)> 「レジリエンス」とは

- 最近この言葉をよく耳にするようになりました。
- ・意味は「レジリエンスとは、「回復力」「復元力」「耐久力」の意味をもつ言葉。
 - ・物理学の世界で使われていた用語。バネやバランスボールなどに圧力をかけたときに起こる、元に戻る力こそがレジリエンスだそうです。
 - ・近年では、物理学的とは別に、心理学的な意味として使われています。
 - ・心理学におけるレジリエンスは、「精神的回復力」という意味があります。

* 仕事や家庭、人間関係の中で困難や脅威に直面し、ストレスを感じることは誰にでもあることでしょう。この状況の中でも適応しながら成長する能力を「レジリエンス」と言います。

<レジリエンスの力が今注目されている理由>

注目され始めた背景には、近年の急激な「社会情勢や事業環境の変化」が影響しています。「環境問題」、「新型コロナウイルスによる影響」、「ウクライナ情勢」、「為替の変動」など、ここ数年にわたり社会の状況は予想のできない変化が続いています。大きな変化が続く中で、危機や困難に直面しても、柔軟に対応して乗り越えられる力が必要とされるためです。

<私が敬愛する精神科医・医学博士である本田秀夫教授の考え>

- ① 幼いときは成功体験を味わう。大きな壁を与えない。
 - ② 子どもが自分で目標・目的を持ったときがレジリエンスの学びが始まる時。
 - ③ 少しずつ小壁をクリアして行きながら、他に与えられたものではなく本人が決めた目標に向かう。その中でレジリエンス(=スランプや挫折から回復してそれをバネにしてさらに前進する力)を学び培っていく。①②③からちょうど中学生ころかなと。
- * 「レジリエンス」とは世の中の厳しさ(様々なことが身に降りかかる)に向かい合っても、自分の力でそれを乗り越えていく、あるいは誰かと協力しながらそれを克服していこうと努力をすること。

* 「今は厳しい」というときは「相談する」「身体を休める」「時間をとる」と良いそうです

<保護者のみなさまへ 市教委からの連絡です>

「子どもの権利条約」リーフレットについて



世界のすべての子どもの幸せを願って作られた「子どもの権利条約」を広く周知するために、藤沢市教育委員会では学校にかかわることを中心にした条文を取りあげる形で、中学生向けにリーフレットを作成し、毎年1年生に配布しています。また、藤沢市教育委員会のホームページにも掲載しており、いつでも閲覧できるようになっています。2次元コードを読み込んでいただき、ぜひ保護者の皆様も子どもの権利についてご確認ください。